



関連するSDGs



## 公正な事業慣行



### 基本的な考え方

ライオンは、サプライチェーンにおける取り組みにおいて、原材料メーカーや生産委託先との連携を強化し、責任あるサプライチェーンマネジメントを構築することが重要な課題であると考えています。事業活動の環境や社会に対するマイナスの影響を低減させ、お互いの事業を持続的に発展させるため、「調達基本方針」に基づき、取引先と当社とがサステナビリティを深化させることが必要です。本方針では、法令遵守、環境保全、人権尊重等からも取引先を選定する姿勢を明確化しています。

### 調達基本方針



<https://www.lion.co.jp/ja/company/compliance/procurement.php>

### 「ライオン贈収賄防止指針」の制定

ライオングループは、世界各国での贈収賄・腐敗行為に対する法規制強化の流れに鑑み、2019年に「ライオン贈収賄防止指針」を制定しています。

今後も、事業を展開する国および地域の法令等を遵守した事業活動を徹底します。

### ライオン贈収賄防止指針



<https://www.lion.co.jp/ja/company/compliance/anti-bribery.php>

#### <主な内容>

- ① 企業行動憲章に基づくライオングループとしての贈収賄・腐敗行為防止に対するコミットメント
- ② 贈収賄・腐敗行為等による利益の排除およびビジネスパートナーに対する協力要請
- ③ 贈収賄防止に関する統括責任者の選任とコンプライアンス体制の構築

### 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進

#### ●「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」に基づくセルフチェック

当社は、原材料メーカーや生産委託先に期待するサステナビリティへの取り組みを示した「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン\*」に基づくセルフチェックを毎年依

頼しています。セルフチェックの結果は、取引先にフィードバックし、継続的にCSR調達を推進できる体制を確立しています。2020年は獅王日用化工（青島）有限公司の取引先に対してもセルフチェックを実施しています。今後も取引先とともにサステナブルで責任ある調達活動を推進します。

#### \*ライオングループサプライヤーCSRガイドラインおよび用語解説

以下に示す5主題、21項目のガイドライン。

1. 人権・労働 2. 環境 3. 公正な事業慣行 4. 消費者課題 5. コンプライアンス



<https://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/jpn.pdf>

※英語、中国語、韓国語はWebサイトに掲載

### サステナブルで責任ある調達の取り組み年表

2005年	「購買に関する基本方針」を制定し、原材料や製品の適正な調達を実施。
2008年	社会面、環境面への配慮をより明確にした「調達基本方針」を制定。国内外の原材料メーカーや生産委託先にコンプライアンス、製品サービスの品質・安全性、環境配慮、労働・人権、公正な取引に関する企業活動のアンケートを実施。
2013年	「調達基本方針」を改訂し、法令遵守、環境保全、人権尊重等からも取引先を選定する姿勢を明確化。原材料メーカーや生産委託先に期待するサステナビリティの取り組みを示した「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」を制定し、取引先に自社のサステナビリティへの取り組みのセルフチェックを依頼。
2014年	CSRセルフチェックをすべてWeb上で実施できるようオンライン化。
2018年	海外グループ会社であるLion Corporation (Korea)の取引先に対してセルフチェックを実施し、セルフチェックの対象国を拡大。
2019年	サステナブルで責任ある調達へ取り組みの姿勢を明確にするため、「ライオン人権方針」「ライオン贈収賄防止指針」を制定。当社の主要な原材料であるパーム油誘導体や紙・パルプにおいて、持続可能な調達の取り組みを進めるため、「持続可能な原材料調達方針」を制定。



## サプライヤーサステナビリティセルフチェック におけるPDCAサイクル



サステナビリティに取り組む重要性をサプライヤーに理解していただくため、セルフチェックの依頼文書において、サステナビリティを取りまく情勢の説明を記載する等、工夫をしています。セルフチェックは取り組みの程度に応じた3段階のチェック基準と用語解説を設けています。

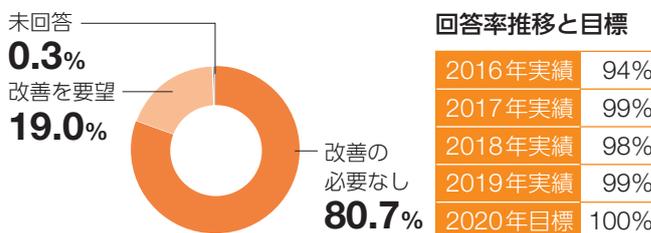
## 持続可能な原材料調達に向けて

当社は、世界共通の2030年目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成への貢献を目指しています。しかし、当社商品の主要原材料であるパーム油誘導体や紙・パルプには、人権・労働問題や環境問題等の持続可能な開発に与えるリスクがあります。そこで「持続可能な原材料調達方針」を設定し、当社の主要な原材料であるパーム油誘導体や紙・パルプにおいて、持続可能な調達の取り組みを進めています。

### ● 持続可能なパーム油の調達を目指して

当社は、枯渇することがなく、カーボンニュートラルな植物原料としてパーム油の誘導体を使用しています。2006年、当社は「持

## サプライヤーサステナビリティセルフチェック 2019年全体集計結果とその推移



モニタリング数：ライオン国内グループの原材料メーカー・生産委託先、計585社(国内：513、海外72)

### 2019年 結果概要

- セルフチェックの回答率は99%、平均点は1～3点の3段階で2.72点と、サプライチェーン全体でサステナビリティに取り組んでいることが確認できました。
- 未回答の2社のサプライヤーに対しては、ヒアリング等を通じて協力をお願いしています。

持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)\*に参画し、RSPO認証パーム油の誘導体を調達しています。2020年末までに購入するパーム油誘導体全量をRSPO認証化することを目指して、2019年も継続購入しました(2019年年間：認証比率約14%)。

### ● 持続可能な紙・パルプの調達を目指して

当社は、商品の包装や、冊子・パンフレット類、コピー用紙等のオフィス用品に紙・パルプを使用しています。これらの資源調達において生物多様性の保全に配慮するため、「持続可能な原材料調達方針」のもと、第三者認証紙の調達を進めています。(2019年12月末時点：主要商品における第三者認証比率約96%)

**目標：**当社国内グループの消費者向け商品に使用するパーム油・パーム核油およびそれらの誘導体、紙・パルプについて、2030年末までに、第三者機関の基準を満たす持続可能性に配慮されたもの、または再生品を調達することを目指します。

### \* 持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)

RSPO(Roundtable on Sustainable Palm Oil)が考える持続可能なパーム油の生産には、関連する法制度に違反していないだけでなく、経済的に存続可能であること、環境的に適切かつ社会的に有益であることが求められます。それらの要件を具体的に示したのが、「RSPOの原則と基準(The RSPO Principles and Criteria, P&C)」です。7つの原則の下に40項目の基準が定められ、これを満たして生産されるパーム油のみをRSPO認証パーム油としています。

#### RSPO

<https://www.rspo.org/>

### 持続可能な原材料調達方針

<https://www.lion.co.jp/ja/company/compliance/material-procurement.php>

### TOPICS

#### サプライヤーエシカル情報共有プラットフォーム(Sedex\*)への加入

Sedex(本部：イギリス)は、グローバルサプライチェーンにおけるエシカルで責任あるビジネス慣行の実現を目指し、エシカルなサプライチェーンデータを管理・共有する世界最大のプラットフォームを提供する非営利団体です。当社は2019年末、購買活動における社会・環境リスクの低減を目的にA・B会員として加入しました。今後もサプライヤー管理を強化し、リスクマネジメントの強靭化を図ってまいります。

\* Supplier Ethical Data Exchangeの略称

**Sedex** Member

### サプライチェーンとともに

<https://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/>